

北関東教区・東京教区

礼拝音楽 NEWS

合同 第1号

2023年7月23日

編集・発行／日本聖公会北関東教区・東京教区

礼拝音楽委員会

reihaiongaku.tko@nssk.org

CONTENTS

◆アンケート&インタビュー「あなたにとって聖歌とは？」

◆リレーエッセイ 北海道教区宣教150年（丸山悦子さん）

ほか

これからの讃美

司祭 パウロ 鈴木伸明（北関東教区）

東京教区で大きな働きを担っていた『礼拝音楽ニュース』、今回より北関東教区も一緒にさせていただき、共同で発行することとなりました。北関東教区と東京教区では、新しい教区を創り出すことを目指した取り組みが続けられていますけれども、両教区の礼拝音楽の交わりはずっと以前、延べ20年近い月日の中で続けられました。

北関東教区ではこれまで東京教区が発行を続けてきた『礼拝音楽ニュース』のような機関紙はありませんでした。各教会でささげられる礼拝における讃美について、共に学び、共に語り、距離を超えて共に歌いあう大きな結びつきがここに備えられるのを嬉しく思います。

約3年半、私たちは新型コロナウィルス感染症への対応を余儀なくされてきました。東京教区は全国で最も影響の大きかった教区でした。そうした中で礼拝休止や聖歌奉唱休止または節を限った奉唱、サービスミュージック（チャント）を歌わず唱えることに変更する等、各教会で工夫や対応がとられました。

本年5月より、新型コロナウイルス感染症の位置づけ変更により、街行く人の中でマスクを着用している人は半分ほどとなり、ポストコロナが見えてきたように感じるかと思えば、陽性者が増加して第9波の入り口との指摘もあり、不安が残る日々になっています。

また3年半の月日の中で、これまで教会で礼拝音楽の貴重な役割を担ってくださった方々が神様のもとに召されたり、お体の都合等でご奉仕が困難になる方も少なくなく、影響の大きさを改めて実感するところです。

そうした中で私たちはこれから、何を求めていくのでしょうか。かつての讃美へただ戻すのではなく、これからの教会の課題、希望を胸に、讃美を生み出していく責任があると思わされます。

北関東教区・東京教区の共同発行となった『礼拝音楽ニュース』が、両教区のこれからの美のため、新しい希望と活力、そして私たちの信仰が深まるために用いられていくことを願います。

あなたにとって

聖


歌

とは？

コロナ禍を通して気づいたこと、

ふりかえって感じること etc.

- ・ 聖書の教えを思い起こさせてくれる、みちしるべ。

 **神さまの愛や恵みが降り注いでいることを、身体で感じられるもの。**

- ・ 哀しい別れ、うれしいお祝い事…いつも聖歌にすっぽり包まれてすごしてきた。

 **聖歌の歌えない礼拝なんて…**

私にとって聖歌とは 常に心の中に流れているもの、なのかな

- ・ 今までの人生の中で常に一緒だったもの。

心の平安を求めて口ずさんだチャント。今振り返るとそれは、出口の見えない暗闇の中の道しるべだったんだな。

- ・ 青春時代を思い起こさせるもの。

最も身近な信仰告白。

- ・ ライブ配信を見ながら自宅で聖歌を歌う時、教会との繋がりを強く感じていました。

常にいつでもどこでも心の中で歌っているもの。

- ・ 愛唱聖歌なら歌いたいが良く知らない聖歌は…コロナ禍で聖歌が無くて楽だった。

イエス様と私を繋ぐ絆。聖歌はいつも、私をイエス様のみもとへと導くのです。

- ・ 言葉にできない祈りや想いをカタチにして、他人や自分と分かち合わせてくれるもの。

季節や時間、その時々のお気持ちに直結し、常に変わり続ける「生き物」のようだと思います。

- ・ 歌うことで自分のエネルギーを外へ出し、開放される。全身で礼拝に参加していることを感じる。

毎主日の聖歌、高齢者には声出しの訓練にもなっている。

聖歌隊員として、聖歌は『普通のこと』として歌ってきた。(コロナ禍で歌えない中)信仰の先輩が備えてくださったトーンチャイムを用いて奉仕することができた。

子ども頃からずっと歌ってきた歌であり、神さまへの祈りを込めたものです。

「感謝と賛美はわたしたちの務めです」

その賛美の方法の一つである聖歌。今こそ歌詞を深く味わい、務めを果たしたい。

- ・ 聖歌とは…心を震わせてくれるもの


いつも励まされ、また慰められています。信仰生活を共に歩んでくれる大切な存在です。

- ・ 聖歌はいのちの糧、生きるよろこび。

元気が出るよう癒してくれる薬。

コロナ禍で思った聖歌と私…

♪聖歌 476 番 (暗闇行くときには)

 感染への不安と、人との交わりが持てない閉塞感に押しつぶされそうな私にイエスさまがそっと背中を押して下さっていると感じた。

1 節は不安な日々をどう過ごしていくか、2 節は前に進んでいく勇気を、3 節は回復への希望をそれぞれ与えてくれていると思う。



アンケート及びインタビューにご協力くださった皆さん、ありがとうございました。

北海道教区宣教150年記念聖歌

「歌詞」募集について

宣教150年記念実行委員 セシリア丸山悦子

キリスト教を禁止する高札が撤去された翌年、英国人司祭デニング師が函館に上陸してから来年で150年となります。北海道教区では過去を振り返り、現在に感謝して祝い、未来に向かって歩み続ける企画が進行中です。「150年を記念してやりたいこと」を2020年に公募した際に、「教区の聖歌をつくる」という案が出されました。

かつて古今聖歌集の「きたのはてなる」を北海道ではよく歌っていましたが、現在の聖歌集には収録されていません。新しく北海道教区の聖歌を作って、みんなで祝いたい、一緒に歌いたい、というシンプルな発想です。

「神さまがともにいてくださって、これからもともに歩んでいきたい」という気持ちになることができる聖歌の歌詞公募、締め切りは今年の6月末。歌詞全体（3節）の応募だけでなく、キーワード、キーフレーズ、1行メッセージなどの応募も可能。集められた皆さんからの歌詞を検討して一曲の聖歌の歌詞を作成しメロディーをつけ、みんなの聖歌になるよう、作業中です。

北海道教区では毎年設定される宣教標語に基づいて「今年の聖歌」を選定していますが、2024年の聖歌はこの新しい聖歌になる予定です。各教会、各家庭で歌い、来夏の宣教150年記念礼拝ではみんなで一緒に歌って祝いたいと思っています。

広大な北の大地で宣教を始められた先人たちの苦勞は、並大抵なものではなかった

北海道教区宣教150年記念聖歌 歌詞募集



北海道教区の聖歌を作ろう！

北海道教区は2024年に宣教150年を迎えます！
これを機に北海道教区の聖歌を一緒に作りませんか？
神さまがともにいてくださって、これからもともに歩んでいきたい
こんな気持ちになることができる聖歌を作りたいと考えています。
次の要領で歌詞を募りますので、みなさんの思いをぜひお寄せください！

でしょう。歩いて、馬に乗って、船に乗って、函館から釧路、稚内、網走と北海道の隅々までキリスト教の種をまかれたことに驚きと感謝の念を覚えます。車に乗ることができるようになった今、夏場に高速道路を利用しても、函館から網走へは8時間半、稚内へは9時間の道のりです。

まかれた種を大切に、これからも育てていけるよう、歌詞を考え、書くことは、私たちの信仰表明です。広い北海道教区に連なる私たちが一つとなって一緒に新しい歌を歌いたい、そんな素朴な気持ちを大切にこれからも歩み続けていきたいと思っています。

写真／函館聖ヨハネ教会（丸山さん提供）



35回に及ぶ教会音楽祭の中で、神さまを賛美するオリジナル曲が数多く生まれました。それらの楽曲を教会音楽祭の大切な財産として、あらためて味わい共に歌う会を開催していこう、ということになりました。

今回は、第1回開催から関わってこられた^{あらかきつぐとし}新垣壬敏先生作曲による4曲を歌います。今まで教会音楽祭に関わったことがない方、クリスチャンでない方も歓迎です。「教会音楽祭オリジナル曲を歌う会」に、どうぞご参加ください！



2023年8月26日(土)
10時～14時30分(予定)

日本福音ルーテル東京教会 2F 礼拝堂にて

新宿区大久保1-14-14

JR新大久保駅または東京メトロ東新宿駅から徒歩

参加申込: 教会音楽祭公式サイト
<http://cmf.holy.jp> 内



「オリジナル曲を歌う会」
ページより申込みください。

※ご希望の方には楽譜をお送りします。
その他お問い合わせもこちらへ！



指揮/指導: 秋吉 亮
伴奏: 苅谷 和子
ボイストレーナー: 北條 加奈

この会の様子は録画/録音し、教会音楽祭YouTubeチャンネル等で一部公開予定です。

主催/第36回教会音楽祭実行委員会

教会音楽祭の オリジナル曲を 一緒に歌いませんか？

今回は4曲を歌います

♪主の祈り

♪エッフアタひらけ

♪十字架の主イエスは

♪いのちの輪

(いずれも新垣壬敏作曲)

タイムテーブル

10時 オリエンテーション

10時05分～35分

ボイストレーニング

10時40分 1～2曲目 練習・合わせ

12時 昼食(各自ご用意ください。教会
1Fに飲食スペースあり)

13時 3～4曲目 練習・合わせ

聖歌集を歌う会

9月2日(土) 13時～15時

インマヌエル新生教会にて

ゲスト: 卓志雄 司祭



東京教区の人気プログラム「聖歌集を歌う会」が、気軽な半日開催で戻ってきました！詳細はこれからお届けするチラシ、教区ニュース等でご確認ください。